

2023年3月13日(月)

NPO法人田村明記念・まちづくり研究会 公開研究会 × 神奈川大学人間科学部「社会調査法(含む実習)」成果報告会

# 地理学の視点から見た横浜農業の特徴と その持続性

神奈川大学人間科学部 特任助教

清水 和明

[ft160284ue@jindai.jp](mailto:ft160284ue@jindai.jp)

# <本報告の内容>

1. 地理学の視点について
2. 問題の所在
3. 横浜農業の特徴
4. 横浜農業の課題
5. 横浜農業の持続性を考える
6. おわりに～まとめにかえて～

## <報告者について>

長野市出身, 2020年～神奈川大学

## <専門分野>

地理学, 人文地理学, 農業地理学

## <これまでの研究>

農業機械の普及と地域  
大規模稲作経営体の成立要因  
(水田農業・集落営農@北陸地方)

## <担当している授業(非常勤先を含む)>

地理学, 地誌学, 人文地理学, 社会調査法,  
GIS, 地理歴史科教育法など

# 1. 地理学の視点について

## 空間スケールの重層性・地域を構成する要素

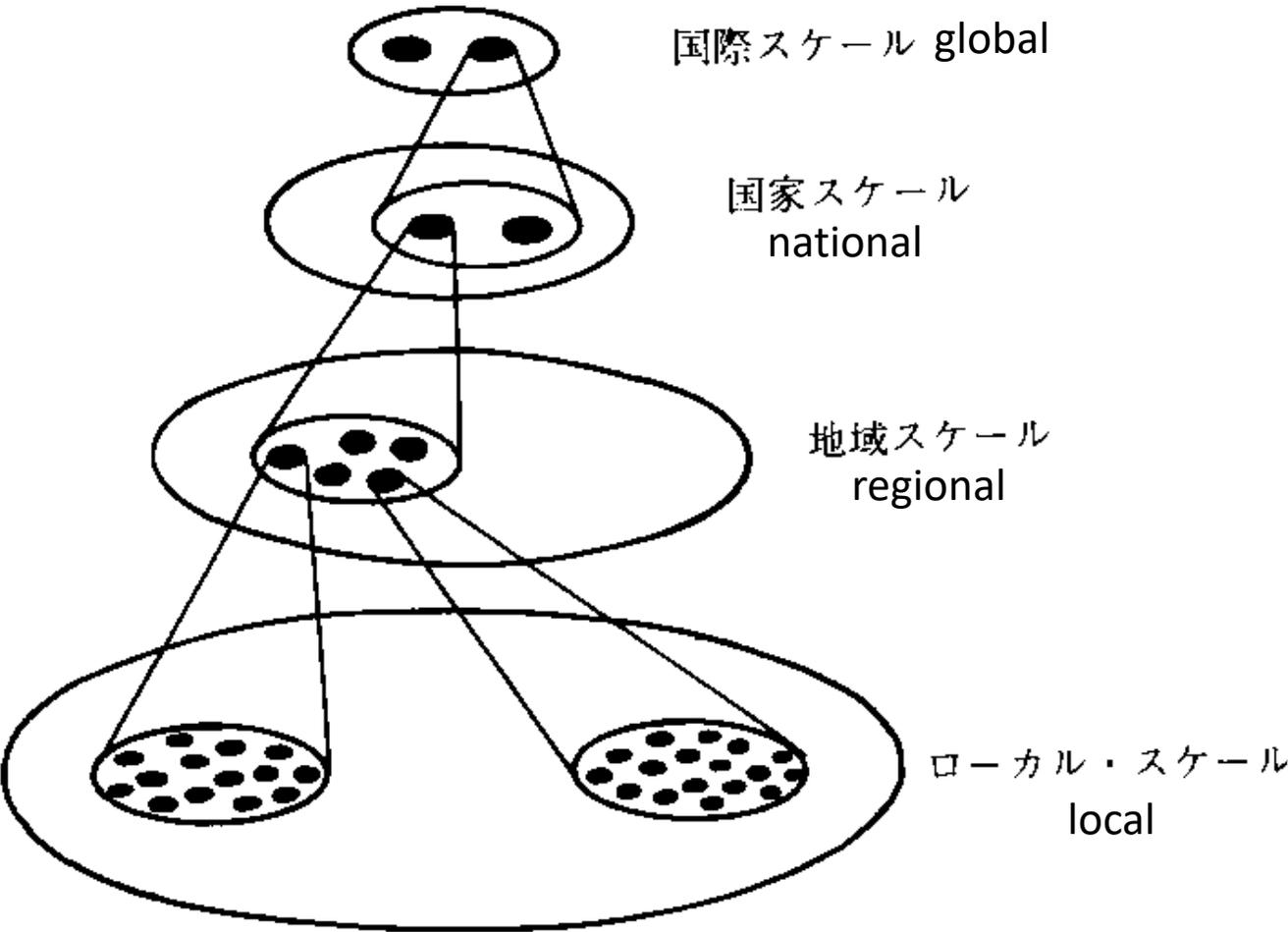


図 空間スケールの重層性

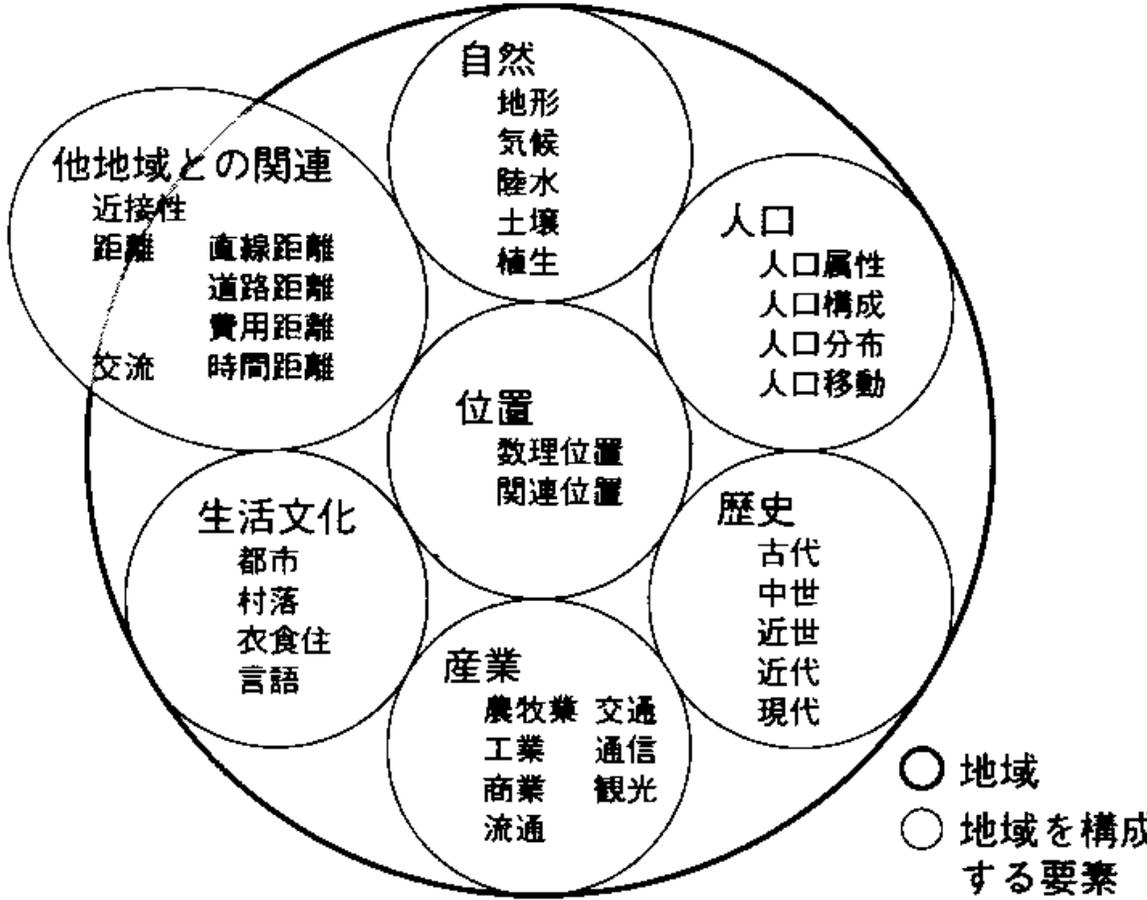


図 地域と地域を構成する諸要素

資料: 高阪宏行(1984)『地域経済分析』高文堂出版社16ページより転載.

資料: 菊地俊夫(2011)総論:日本の地域像. 菊地俊夫編 『日本』朝倉書店2ページより転載.

## 2. 問題の所在

### ◆ 近年の都市近郊地域の農業を取り巻く状況

都市農業振興基本法(2015年)の制定

「農地は都市にあってはならないもの」⇒「農地は都市にあるべきもの」(安藤, 2020)

「都市農業はみんなで支える時代へ」(石原, 2019)

### ◆ 横浜市と農業

「開発」, 「都市」といったイメージが先行し, 「農業」=「瀬谷区」のような認識

「農的土地利用」をまちづくりに組み込んできた経緯は認知されている?

港北ニュータウンにおける農業専用地区制度(1969年)の指定をはじめ, 都市農業の維持と環境の保全を図るための多彩な取り組みが行われてきた(蔦谷, 2009)

## <本報告の目的>

- 横浜農業の特徴を確認  
(どこで, 誰が, 何を, 誰に向けて, 作っているのか?)
- 横浜農業が抱える課題の整理  
(産地としての側面 & 農業専用地区に関連した項目)
- 横浜農業の持続性に必要な視点の検討  
(「産地」と「農的土地利用」の双方が持続するために)

※「農的土地利用」= 農地の他, 農業集落やその屋敷林などを含む土地利用(原田ほか, 2012)

# 3. 横浜農業の特徴

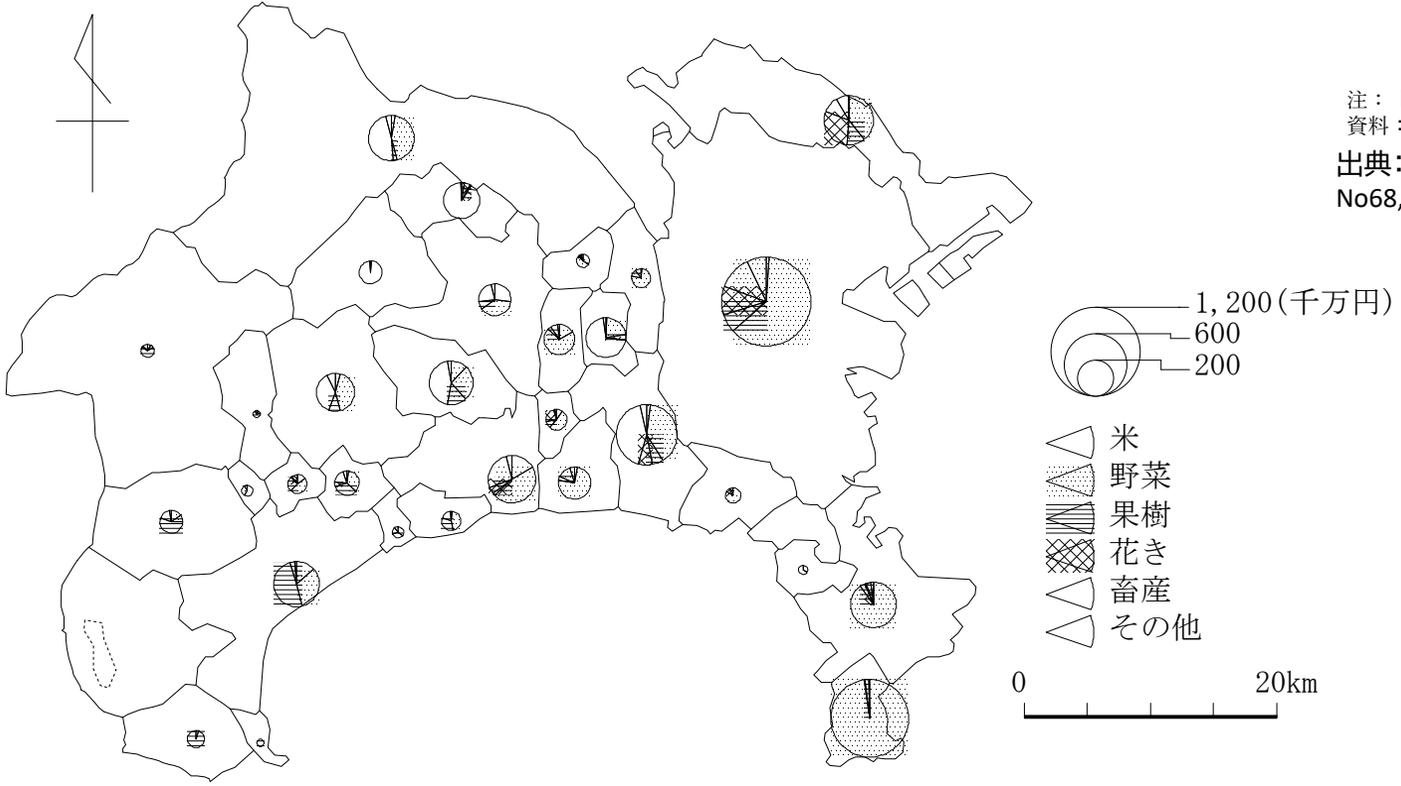


図 神奈川県内の市町村別にみた農業産出額（推計）とその内訳（2020年）

注：「その他」は、麦類、雑穀、豆類、いも類、工芸農作物、その他作物、加工農産物の金額を合算したものである。  
 相模原市、小田原市、茅ヶ崎市、秦野市、厚木市、伊勢原市、海老名市、南足柄市、大磯町、開成町、湯河原町は、「花き」の算出額が秘匿値であるため、数値を入力していない。  
 資料：農林水産省「生産農業所得統計」より作成。

出典：清水和明(2022)「統計からみた横浜市の農業の地域的特徴」神奈川大学人文学研究所「人文学研究所報」No68,75ページより引用。

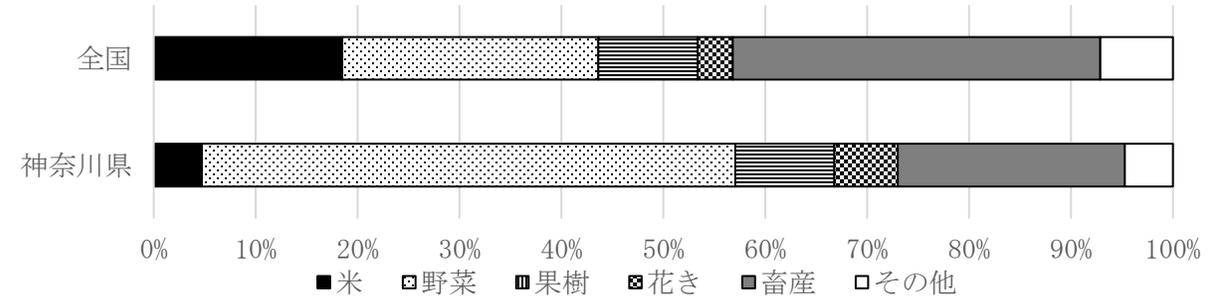
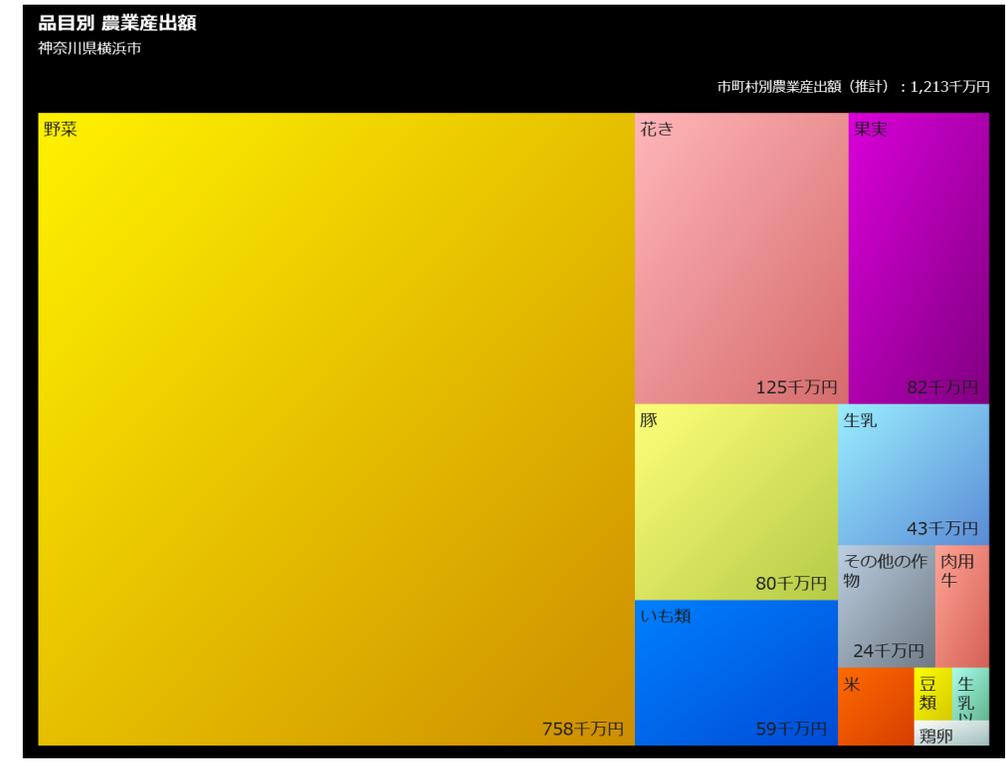


図 全国と神奈川県農業産出額の構成（2020年）

注：「その他」は、麦類、雑穀、豆類、いも類、工芸農作物、その他作物、加工農産物の金額を合算したものである。  
 資料：農林水産省「生産農業所得統計」より作成。

出典：清水和明(2022)「統計からみた横浜市の農業の地域的特徴」神奈川大学人文学研究所報 No68,74ページより引用。



横浜市の品目別農業産出額(2020年)

出典：地域経済分析システムRESASより作成。<https://resas.go.jp/agriculture-all/#/portfolio/9.934673752122055/35.443972/139.63825/14/14100/0/2020/2/0.0/-/>

- 横浜市の農業経営体数:1,931経営体(20年)  
⇒ 個人:1,879経営体, 法人:52経営体  
⇒ 都筑区:265経営体, 泉区:247経営体

- 経営規模別:670経営体が0.5~1.0ha層

- 農産物販売金額別:451経営体が100~300万円層  
⇒ 港北区, 都筑区:1,000万円以上の層も

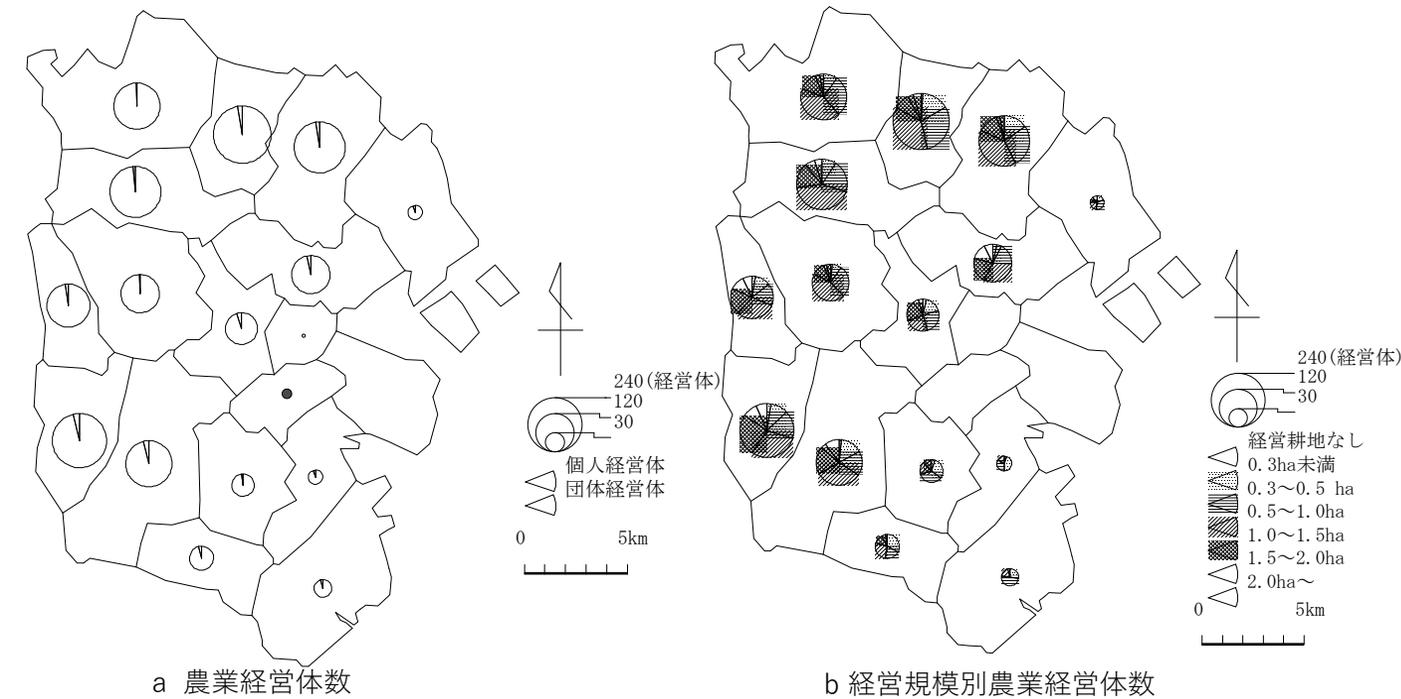
不動産収入に下支えにした販売農家と高齢専業農家に二極化(江成, 2014)

- 「露地野菜」が各区で多い。  
※ 野菜生産出荷安定法の「指定産地」  
(春キャベツ, 夏秋キャベツ, 冬キャベツ)

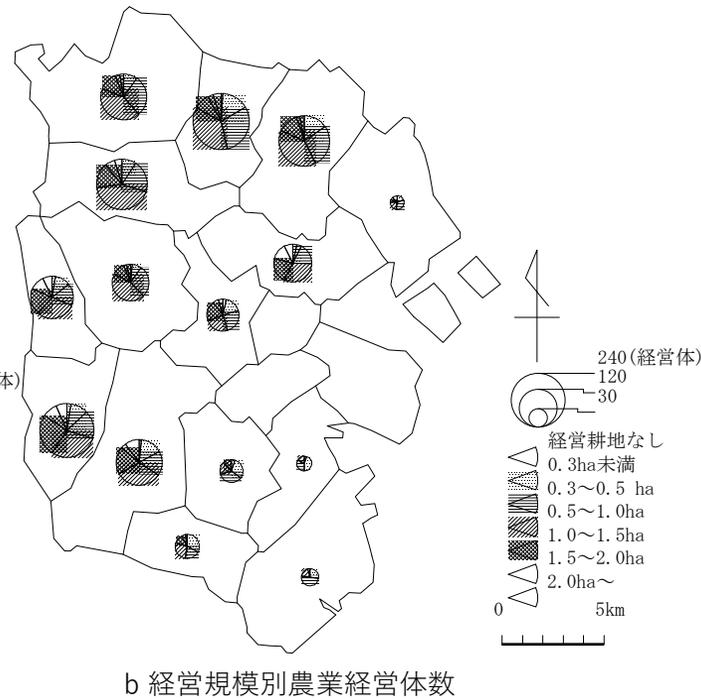
図 横浜市内の農業の地域的特徴 (2020年)

注: 西区と南区は農業経営体数以外の数値が秘匿値であったためa)以外は数値不明として入力していない。中区は全ての項目が「数値なし」であったため、数値を入力していない。  
: d) の「その他」は、麦類策, 工芸農作物, その他の作物, 酪農を合算したものを指す  
資料: 農林業センサスより作成。

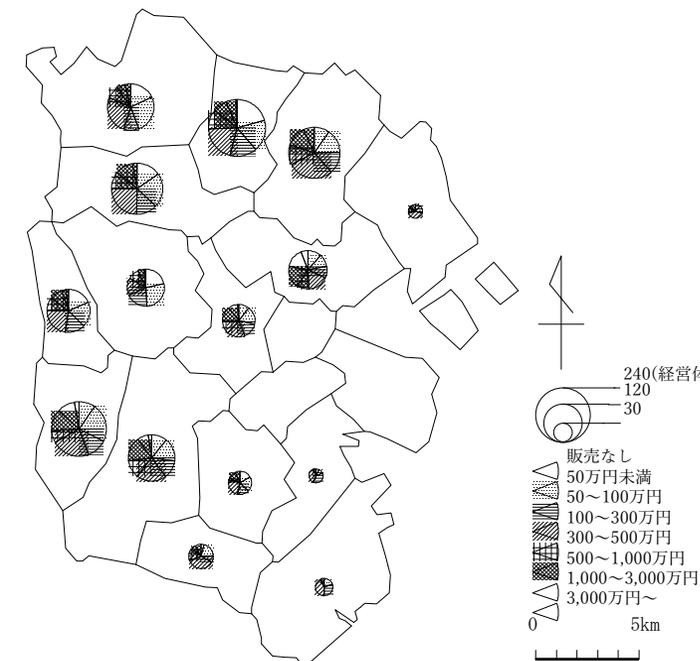
出典: 清水和明(2022)「統計からみた横浜市の農業の地域的特徴」神奈川大学人文学研究所「人文学研究所報」No68,76ページより引用。



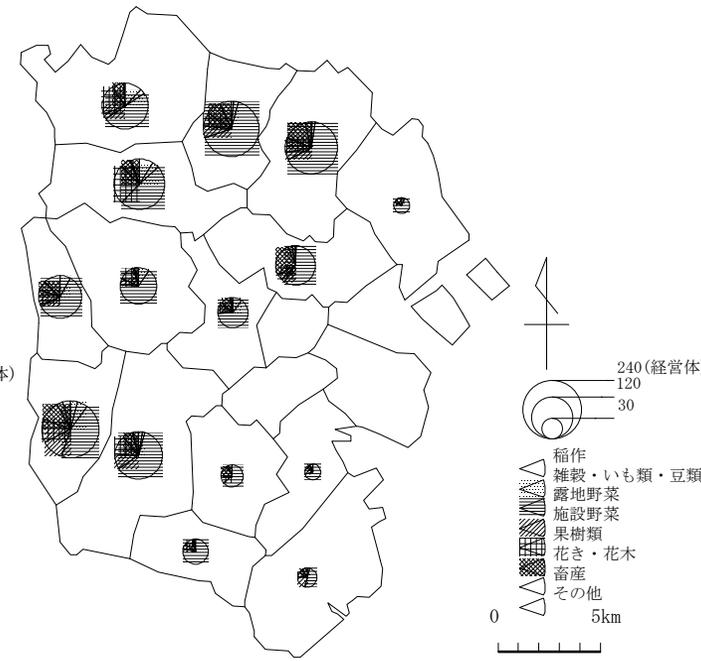
a 農業経営体数



b 経営規模別農業経営体数



c 農産物販売金額の規模別農業経営体数



d 農産物販売金額1位の部門別農業経営体数

## <横浜農業の特徴>

「消費者への直接販売」の割合が多い。

⇒直売所(軒先販売を含む)

⇒消費者が近くに存在することを生かした農業

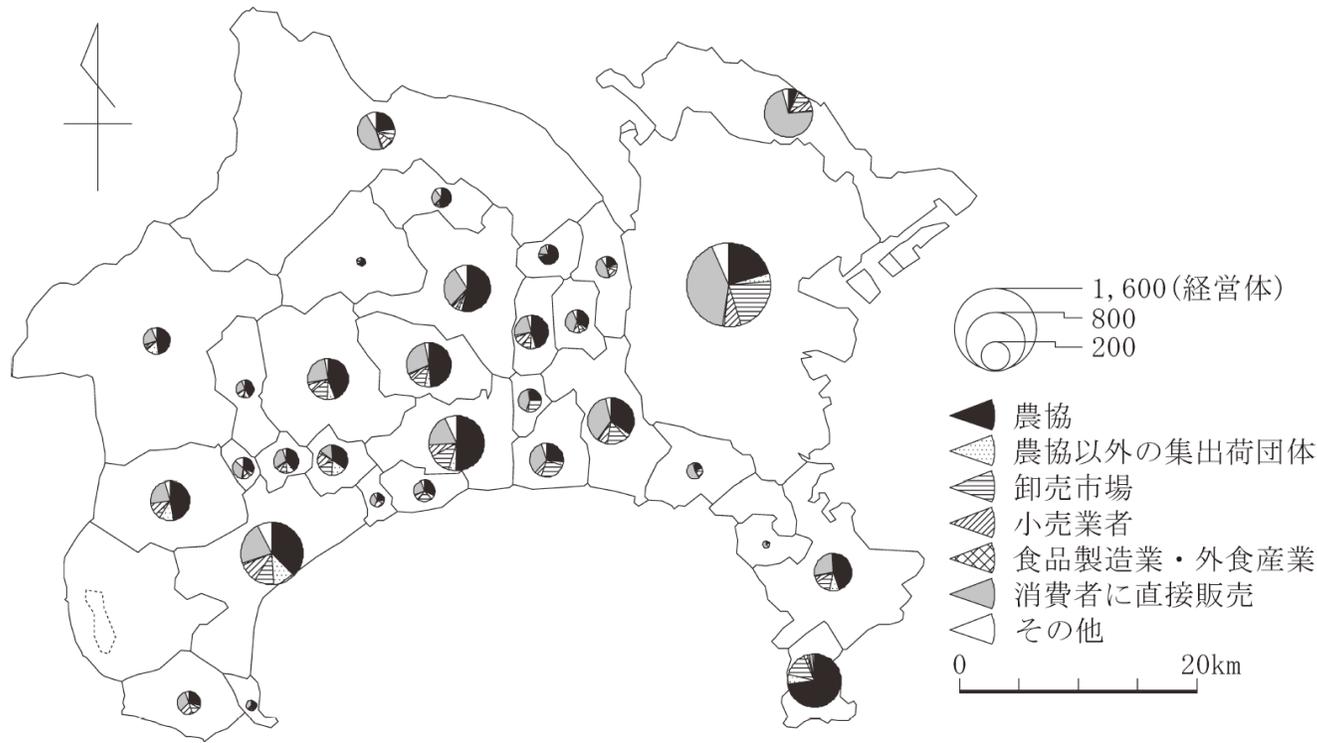


図3 市町村別に見た農産物の売上1位の出荷先別経営体数(2020年)

注: 逗子市と箱根町の経営体数は秘匿値となっているため算出していません。

資料: 農林業センサスより作成。

出典: 清水和明(2022)「統計からみた横浜市の農業の地域的特徴」神奈川大学人文学研究所「人文学研究所報」No68,75ページより引用。

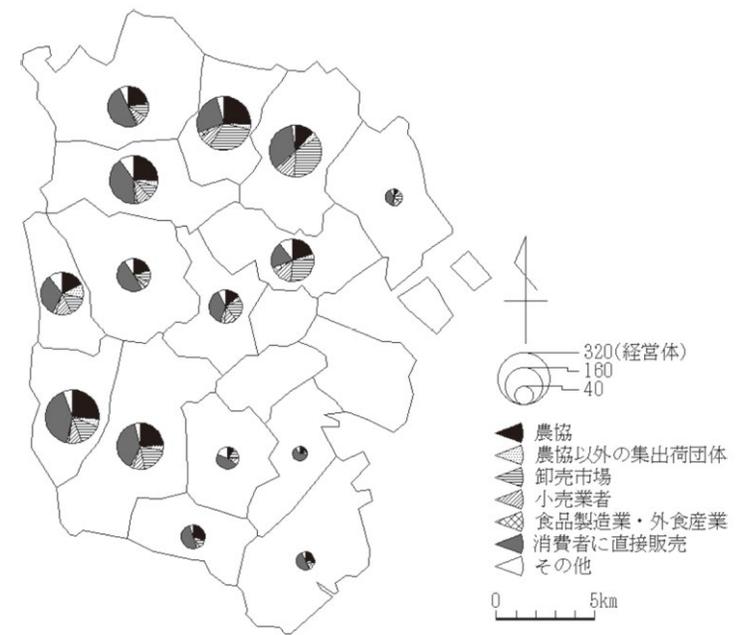


図7 農産物の出荷先別経営体数(2020年)

注: 中区は数値なし。西区と南区は秘匿値であったため、数値を入力していない。  
: 複数回答である。各区の農業経営体数より多い数値となっている。

資料: 農林業センサスより作成。

出典: 清水和明(2022)「統計からみた横浜市の農業の地域的特徴」神奈川大学人文学研究所「人文学研究所報」No68,79ページより引用。

表1 消費者への「直接販売」を行っている経営体の主な販売方法

	自営の農産物直売所	その他の農産物直売所	インターネット	その他の方法
鶴見区	11	3	1	2
神奈川区	19	18	1	12
港南区	12	8	1	10
保土ヶ谷区	26	19	1	18
旭区	31	11	0	31
磯子区	8	4	0	14
金沢区	8	11	1	6
港北区	74	27	3	20
緑区	71	37	0	33
青葉区	67	20	2	32
都筑区	49	30	3	26
戸塚区	58	29	2	35
栄区	17	11	0	9
泉区	82	27	3	44
瀬谷区	40	10	1	20

注: 中区は数値なし、西区と南区は秘匿値であったため表中から除外している。

: 複数回答の結果であるため、表中の回答数を合計すると各区の農業経営体数より多い数値となる。

: 「その他」には「無人販売」などが含まれる。

資料: 農林業センサスより作成。

出典: 清水和明(2022)「統計からみた横浜市の農業の地域的特徴」神奈川大学人文学研究所「人文学研究所報」No68,79ページより引用。

# 農林水産省「地域の農業を見て・知って・活かすDB～農林業センサスを中心とした総合データベース」(活かすDB)を用いた, 農業専用地区の現状把握

農林水産省

English ミスサイト サイトマップ 文字サイズ 標準 大きく

逆引き事典から探す 組織別から探す キーワードから探す Google 提供 検索

会見・報道・広報 政策情報 統計情報 申請・お問い合わせ 農林水産省について

ホーム > 統計情報 > 地域の農業を見て・知って・活かすDB～農林業センサスを中心とした総合データベース～

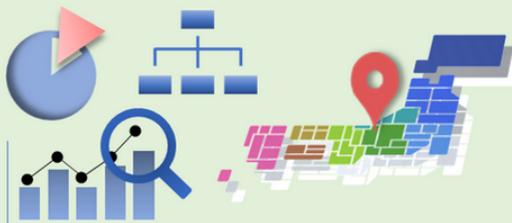
## 地域の農業を見て・知って・活かすDB～農林業センサスを中心とした総合データベース～

### 地域の農業を見て・知って・活かすDBで

地域農業に関するデータを

利用者が自由に分析

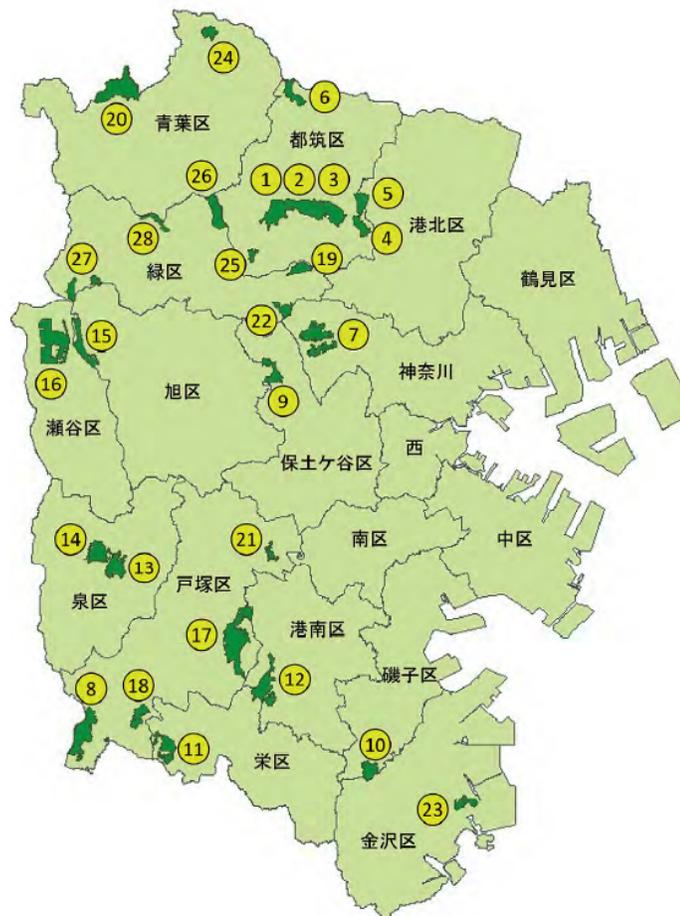
地図で可視化



#### 地域の農業を見て・知って・活かすDBとは?

「地域の農業を見て・知って・活かすDB」は、農業集落(全国約15万)を単位として、農林業センサスの結果と各種情報とを組み合わせ、農林水産省が独自に加工・再編成したデータを提供するものです。地域農業の現状をグラフや地図で見える化するこ

農業専用地区 (28地区、1,071ha)



番号	地区名	指定年月日	地区面積 (ha)	
1	港北ニュータウン農専	池辺	昭和44.9.24	60.0
2		東方	昭和44.9.24	60.0
3		折本	昭和44.9.24	43.0
4		大熊	昭和44.9.24	20.0
5		新羽大熊	昭和44.9.24	23.0
6		牛久保	昭和44.9.24	24.0
7	菅田羽沢	昭和47.3.31 (変更S58.10.5) (変更H3.4.20) (変更H26.12.11)	61.1	
8	東俣野	昭和47.3.31 (変更S48.11.2) (変更H9.2.4)	65.7	
9	西谷	昭和47.11.25 (変更S51.5.25)	25.2	
10	氷取沢	昭和48.3.22	20.9	
11	田谷・長尾台	昭和48.10.30	35.1	
12	野庭	昭和50.12.27	43.4	
13	中田	昭和51.5.13	40.0	
14	並木谷	昭和51.5.13	35.0	
15	上川井	昭和52.7.7	35.3	
16	上瀬谷	昭和52.7.7	92.0	
17	舞岡	昭和54.9.17 (変更H22.10.15)	102.7	
18	小雀	昭和55.4.25	25.7	
19	鴨居東本郷	昭和57.1.13	19.1	
20	寺家	昭和61.3.24	86.1	
21	平戸	昭和61.3.24	8.8	
22	鴨居原	昭和61.9.1	17.1	
23	柴	平成3.3.30	17.4	
24	保木	平成4.3.3	14.7	
25	佐江戸宮原	平成5.3.15	8.6	
26	北八期	平成9.5.15	39.8	
27	長津田台	平成18.8.30 (変更H23.12.1)	25.7	
28	十日市場	平成27.1.9	21.6	
	計	28地区	1,071.0	

図 農業専用地区の一覧

出典:横浜都市農業推進プラン2019-2023

[https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/nochi/nougyou/nougyousuishinplan.files/0025\\_20190319.pdf](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/nochi/nougyou/nougyousuishinplan.files/0025_20190319.pdf)

出典:[https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/shuraku\\_data/index.html](https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/shuraku_data/index.html) (2023年3月8日閲覧)

(2023年3月8日閲覧)

# 農業専用地区を有する農業集落の特徴について

2020年農林業センサスにおける池辺北部(池辺), 東方, 折本, 小雀, 十日市場の各集落の情報について図化。

(使用した感想: 詳細な統計情報を取って分析に使用するならば, 「農業集落カード」の方がよい?)

<上記地区の選定理由>

集落の範囲に農業専用地区が含まれること, 農業経営体が一定数あること。



図 対象とする農業集落の位置(小雀)

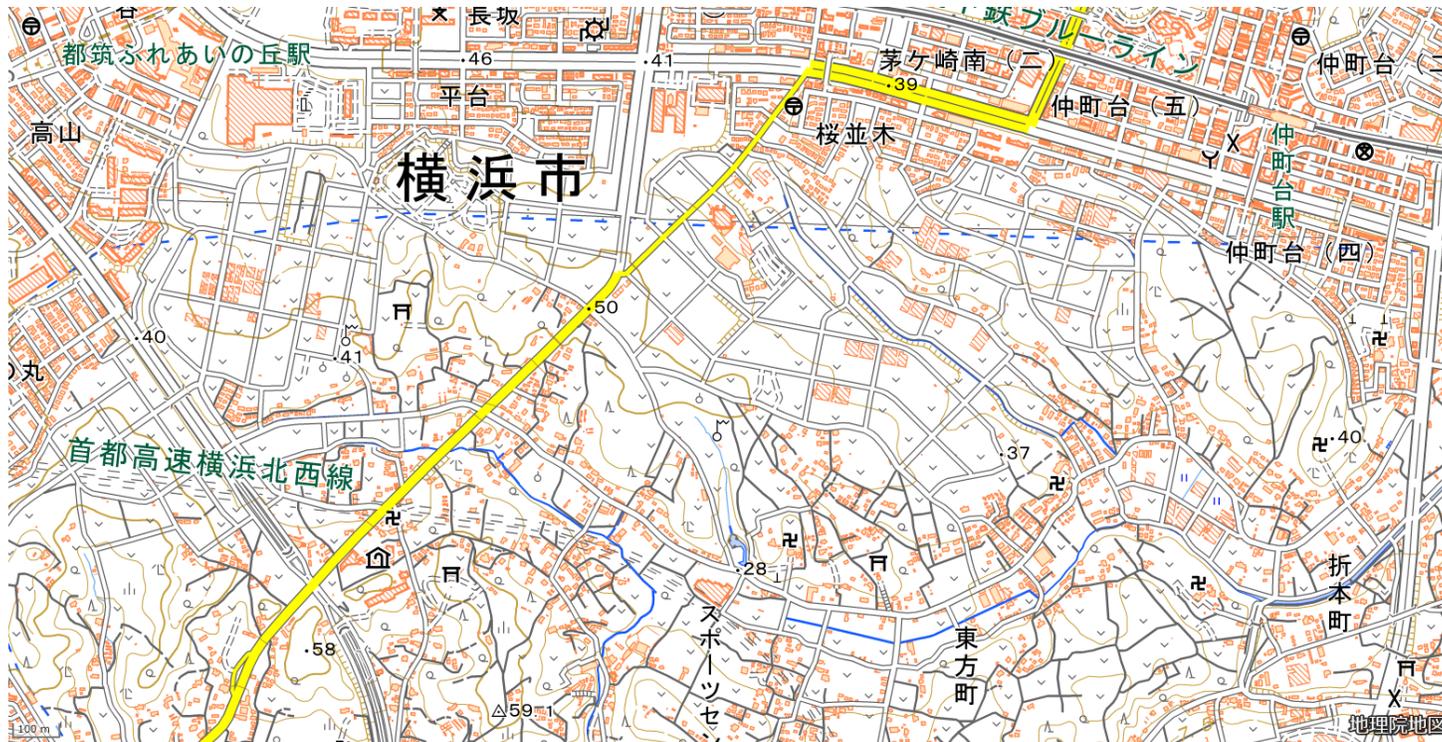


図 対象とする農業集落の位置(池辺・東方・折本)



図 対象とする農業集落の位置(十日市場)

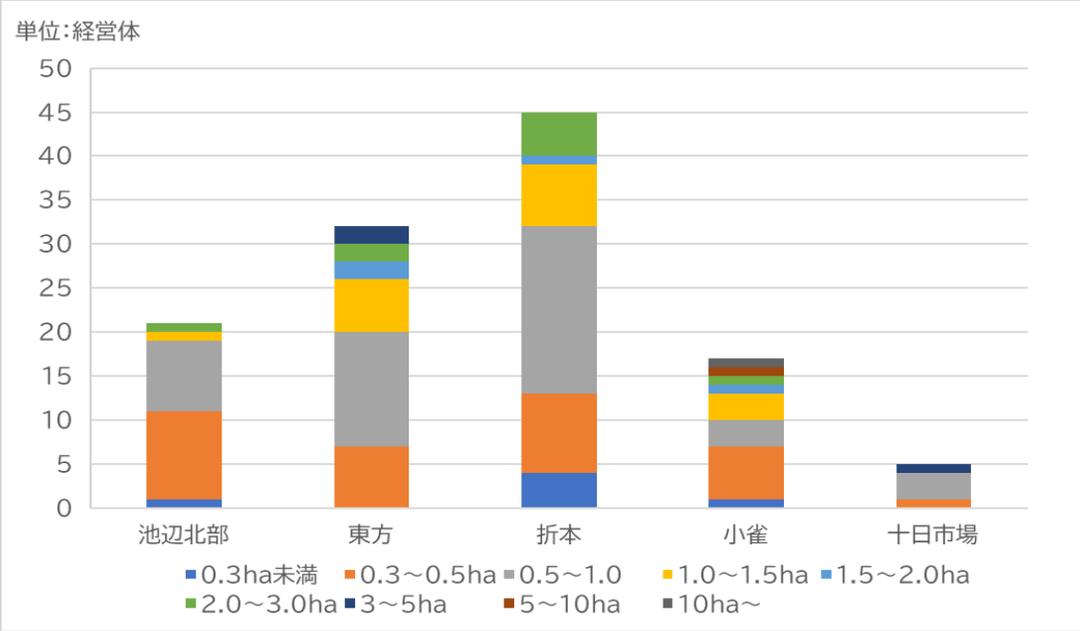


図 各集落における経営耕地面積規模別の経営体数(2020年)

資料:農林業センサスより作成.

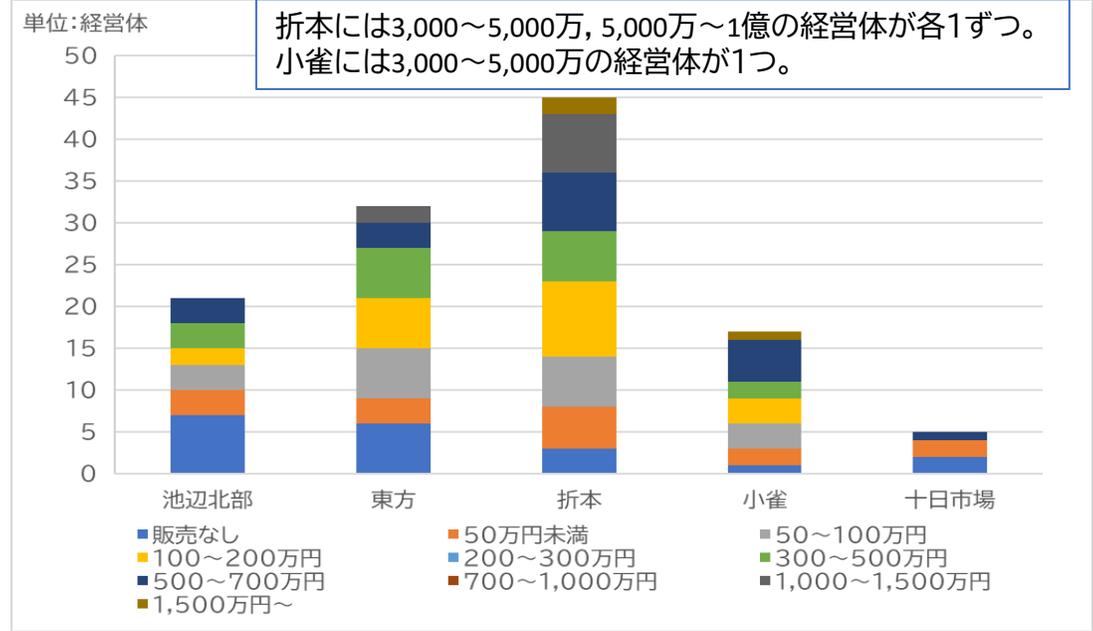


図 各集落における農産物販売金額規模別の経営体数(2020年)

資料:農林業センサスより作成.

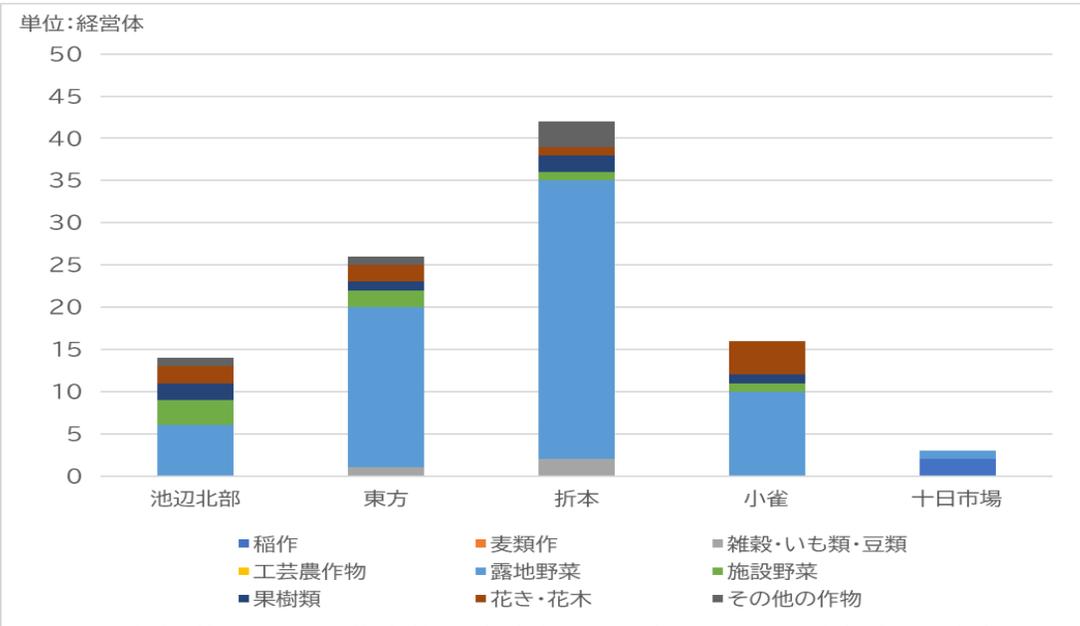


図 各集落における農産物販売金額1位の部門別経営体数(2020年)

資料:農林業センサスより作成.

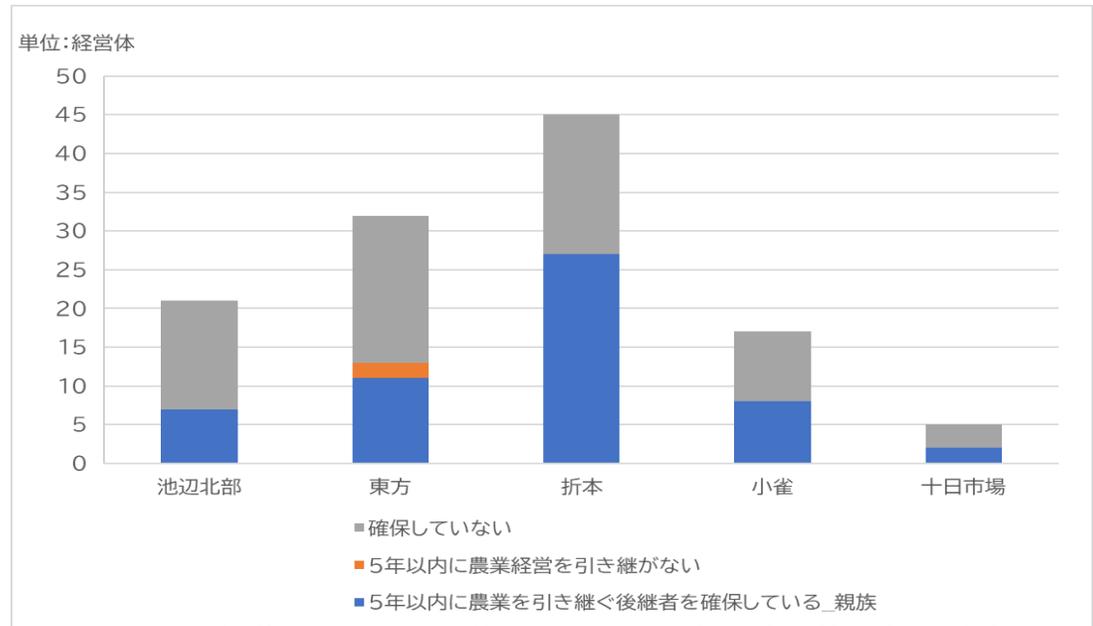


図 各集落における経営体における後継者の確保状況(2020年)

資料:農林業センサスより作成.

## 4. 横浜農業の課題

○ 農産物「産地」としての課題(国内産地の調査を踏まえて)

後継者がいること ≠ 農業経営が安定的に継続されること  
「後継者」の視点 ⇒ 親世代はいつまで農作業ができるか？

親世代とセットで担っていた農作業をどのように維持するか？  
(部門によって作業体系が異なる: 稲作・野菜・果樹・花き・畜産)

※余人・機械・技術を以て代えがたいノウハウ

稲作における圃場の理解, 花き・果樹のハサミの入れ方

# 大規模圃場の整備を通じた作業環境の変化(新潟県上越市)

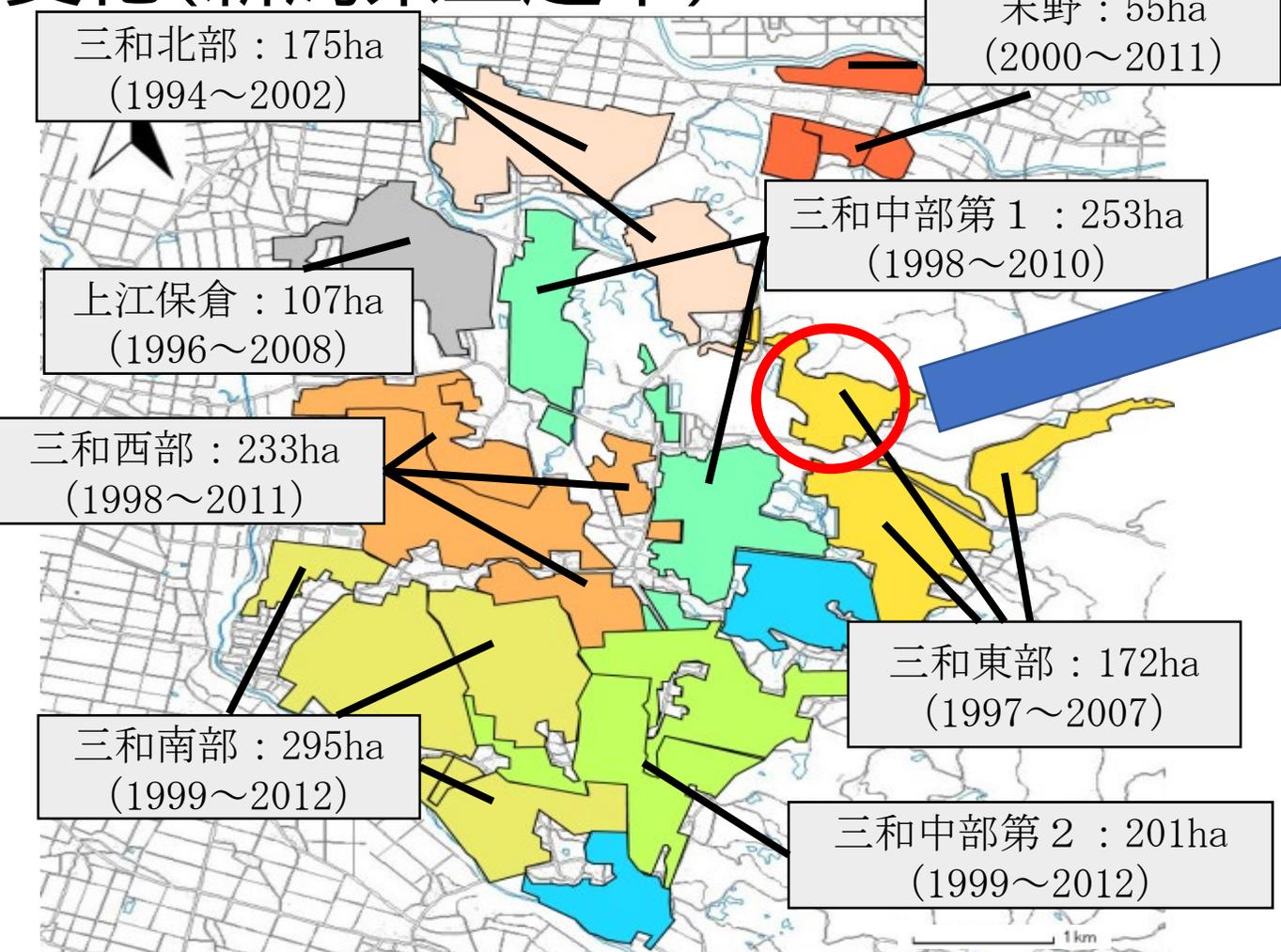


図 三和区における大規模圃場整備事業実施地域

注)  は事業対象外の地域を示す。

括弧内は事業実施年度を示す。

資料) 三和区総合事務所提供資料より作成。

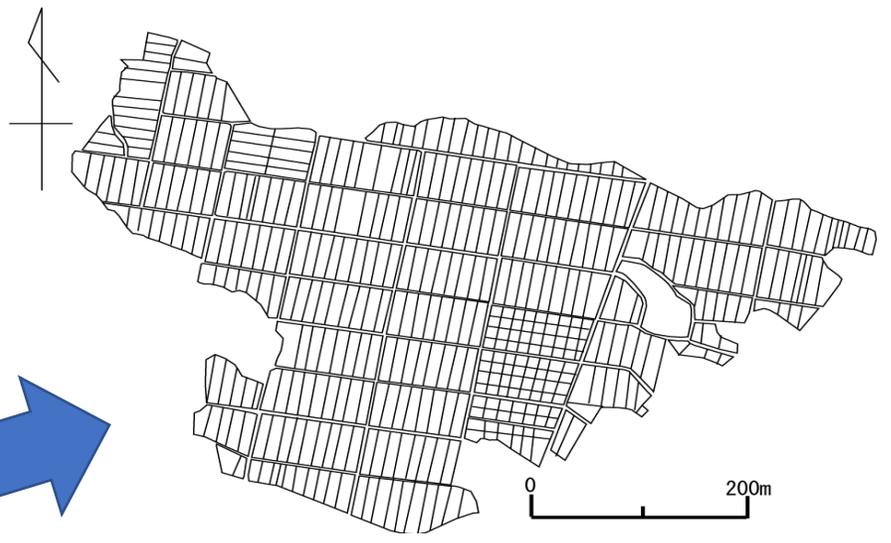


図 圃場整備事業実施以前(1975年)の圃場  
資料: 空中写真より作成。

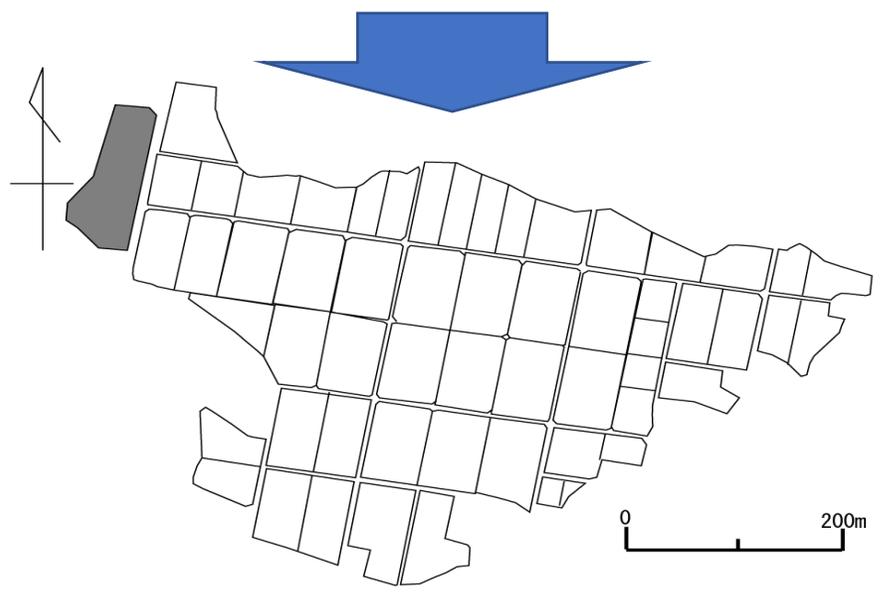


図 圃場整備事業実施後(2010年)の圃場  
資料: 空中写真より作成。

# ○経営耕地面積50ha(大半が貸借)の稲作農家 非法人だが、複数人を雇用し作業従事(通年雇用ではない)。

## 現経営主への交代時期

2006年(先代の死去による)

経営耕地面積:48.0ha(2011年)

(自作地17ha, 借地31ha)

現経営主就農時:32.0ha

労働力構成:家族労働力+雇用労働力

## 販路

全量を直接販売

中小卸売業者(業務用米), 一般消費者

## 経営耕地の属性と分布

複数地区に分散

他地区の特定地区に集積

## 経営体としての成立要因

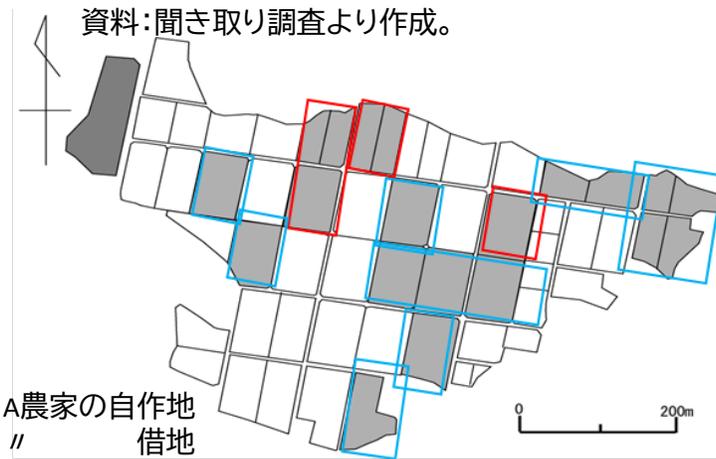
経営主の独立心, 革新的経営方針

自己資金による経営規模の維持



図 A農家の農地の分布(2010年)

資料:聞き取り調査より作成。



赤枠 A農家の自作地  
青枠 // 借地

■ A農家の耕地 □ A農家以外の耕地

図 北代地区におけるA農家の耕地の分布状況

資料:聞き取り調査より作成。



新潟県上越市A農家の乾燥施設(2011年11月8日撮影)

# 農業専用地区に関連した課題

早くに指定された地区の景観

耕地と休耕地の混在, 不法投棄対策の柵

⇒ 都市住民の農地・農業に対する認識が  
ポジティブなものになるか？

※農家にとっての「条件不利農地」(アクセス, 農地の条件等)が休耕地化しやすい。

「農的土地利用を都市計画に位置づけて  
いく必要がある」(原田ほか, 2012)ならば,  
何らかの対応は必要では・・・



# 5. 横浜農業の持続性を考える

- 横浜農業が持つ二面性(「農産物の産地」・「農的土地利用」)を踏まえれば、一律で「スマート農業」を進めていくことではない(と考える)
  - 農業経営体の安定が「農産物の産地」の持続性を考える上で重要
- 研究課題: 何が経営体の成立要因か? 経営上の懸念は何か?**

芦田(2019)が指摘する農業の魅力

- 自然や地域社会の中での「生き方」, 「生活の一部」であり, 人々の「生きがい」。
- 経済的な合理性だけでは図れない「人間らしさ」(作業のこだわり, 機械のメンテナンスなど)

「農業」 × 「先端技術」 = 「スマート農業」

「スマート農業」とは、「ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業」のこと。

➡ 「生産現場の課題を先端技術で解決する！ 農業分野におけるSociety5.0※の実現」

※Society5.0：政府が提唱する、テクノロジーが進化した未来社会の姿

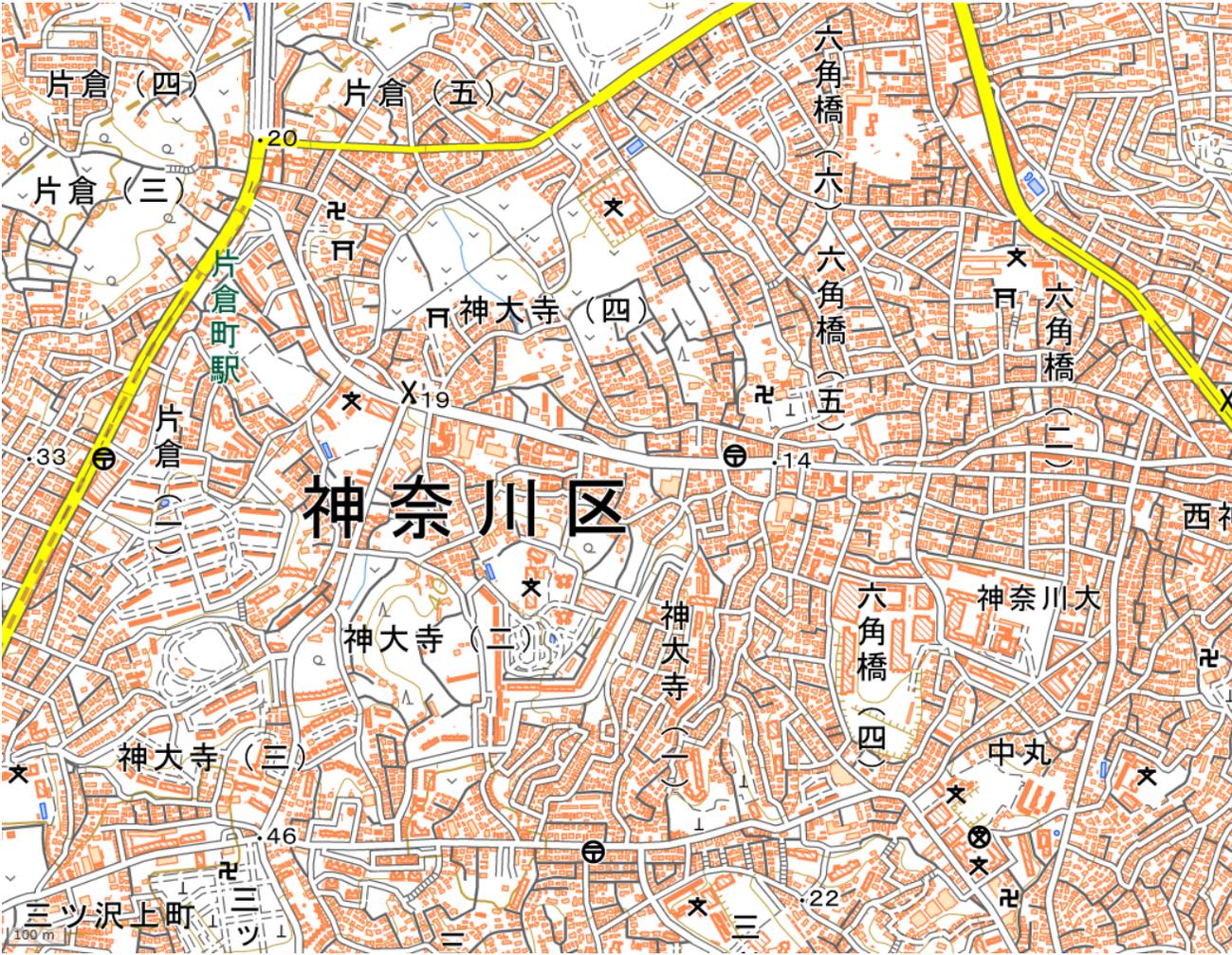
**スマート農業の効果**

- ① **作業の自動化**  
ロボットトラクタ、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手を省くことが可能に
- ② **情報共有の簡易化**  
位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に
- ③ **データの活用**  
ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に





# 神奈川県横浜キャンパス周辺の「農的空間」(神大寺4丁目)



主催：かなっば畑の会 (神奈川県民活動支援センター【登録団体】)

## 大人のための畑で楽しむ「やさしい」の時間

ステキな仲間と

土づくりから収穫まで、私たちと一緒に野菜づくりにチャレンジしませんか？ステキな仲間と、畑で汗を流しましょう。

1 7/9(土) <b>種まきに挑戦</b> ～ニンジン、さつまいもの種まき、枝豆の収穫～	2 8/27(土) <b>苗を植えよう</b> ～キャベツとブロッコリーの定植、かぼちゃの収穫～	3 9/3(土) <b>種イモを植える</b> ～ジャガイモの定植と大根の種まき～
4 10/22(土) <b>収穫第一弾</b> ～ニンジン、さつまいもの収穫とジャガイモ追肥&除草～	5 11/12(土) <b>収穫第二弾</b> ～キャベツ、ブロッコリー収穫、ジャガイモ追肥&除草～	6 12/3(土) <b>とれたて野菜でカレーパーティー</b> ～じゃがいも、大根の収穫～

上記の日の他に、自主参加日があります。

- ◇ 会場 mkファーム 神奈川県神大寺4-21-22 込宮正一さん宅
- ◇ 時間 9:30～11:30 (講座日によって変わることがあります)
- ◇ 対象 横浜市在住、在勤 定員20名 ※応募者多数の場合は抽選
- ◇ 参加費 3,000円 (全6回分。保険代金を含みます。7月9日に集金します。)
- ◇ 申込み ハガキまたはFAXに、以下を明記してお送りください。
  - ①宛先: 親がめBOX中-10 かなっば畑の会
  - ②氏名 (ふりがな)
  - ③干・住所
  - ④電話番号
  - ⑤携帯番号
  - ⑥メールアドレス (雨天中止などを連絡しますので、ある方は必ず記入願います。)
  - ⑦年代
  - ⑧性別
- ◇ 申込先 神奈川県民活動支援センター 親がめBOX中-10 かなっば畑の会 行  
〒221-0824 神奈川県川崎市麻生区大庭町3-8 FAX 045-323-2502
- ◇ 問い合わせ先 電話 080-2373-9764 (木津)
- ◇ 締切 6月18日(水) 必着

コロナ感染症について : 神奈川県に緊急事態宣言または横浜市にまん延防止等重点措置が発出された場合、発出中のすべての畑作業を休回と致します。あらかじめご了承ください。代行可能な作業はかなっば畑の会にて致します。収穫などは密にならないよう、日を分散させて行う等の対策を考慮致します。

【主催】かなっば畑の会 【後援】神奈川県民活動支援センター

<https://maps.gsi.go.jp/#16/35.486629/139.613807/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>

## 6. おわりに～まとめにかえて～

<農業, 地域の振興を考える上での視点>

「食品の加食部分だけを消費しているのではなく, 食品に含まれる情報を消費している」(高柳, 2007)。

<都市農業に対する興味関心が高まっている状況>

「地域で農業を支えていく社会」(清水ほか, 2011)に都市住民を巻き込む絶好の機会と考えられる。

⇒ 農的空間をまちづくりに組み込んだ横浜の強み。

「農産物の産地」・「農的土地利用」という横浜農業の有する性質を「車の両輪」と捉えることが, 横浜農業の「持続性」を考える上で重要になるのでは…

## <参考文献・資料一覧>

- 芦田裕介(2019)農業機械と人の関係性から見たスマート農業への懸念.「季刊地域」No39.42-45.
- 安藤光義(2020)都市の農地・農業政策の評価と展望.「農業と経済」No86(9). 6-16.
- 石原 肇(2019)『都市農業はみんなで支える時代へー東京・大阪の農業振興と都市農地新法への期待ー』古今書院.
- 江成卓史(2017)横浜市の都市農業と農地保全.「農業農村工学会誌 水土の知」No85 (7). 7-11.
- 菊地俊夫(2011)『世界地誌シリーズ1 日本』朝倉書店.
- 高阪宏行(1984)『地域経済分析』高文堂出版社.
- 清水和明・大隈 茜・荷見光太郎・牧田 悠・両角政彦(2011)カリフォルニア州デービス市におけるファーマーズマーケットと地域社会のかかわり.「地理誌叢」No53(1). 23-32.
- 清水和明(2022)統計からみた横浜市の農業の地域的特徴. 神奈川大学人文学研究所「人文学研究所報」No68. 73-84.
- 高柳長直(2007)食品のローカル性と産地振興ー虚構としての牛肉の地域ブランドー.「経済地理学年報」No53(1). 61-77.
- 蔦屋栄一(2009)『都市農業を守るー国土デザインと日本農業ー』家の光協会.
- 原田文恵・雨宮 護・横張 真(2012)初期の港北ニュータウン計画における農的土地利用の計画意図. 日本造園学会「ランドスケープ研究」No75(5). 593-596
- 両角政彦(2001)花き市場変動下における産地の再編成ー長野県坂城町のバラ生産を事例にー. 人文地理No53(5). 1-23.
- 農林水産省2023年1月「スマート農業の展開について」<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/attach/pdf/index-86.pdf> 2023年3月7日最終閲覧.
- 農林水産省2023年1月「都市農業をめぐる情勢について」[https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi\\_nougyo/attach/pdf/t\\_kuwashiku-39.pdf](https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougyo/attach/pdf/t_kuwashiku-39.pdf) 2023年3月10日最終閲覧.
- 農林水産省「地域の農業を見て・知って・活かすDB～農林業センサスを中心とした総合データベース」[https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/shuraku\\_data/index.html](https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/shuraku_data/index.html) 2023年3月8日最終閲覧.
- 横浜市環境創造局「横浜都市農業推進プラン2019-2023」[https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/nochi/nougyou/nougyousuishinplan.files/0025\\_20190319.pdf](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/nochi/nougyou/nougyousuishinplan.files/0025_20190319.pdf) 2023年3月8日最終閲覧.